

竹取物語

たけとりものがたり

月に帰る場面

かかるほどに、よい うち過ぎて、子の時ばかりに、家の辺り、昼の明さにも過ぎて、光りたり。

もちづきの明さを 十合わせたるばかりにて、在る人の 毛の穴さえ 見ゆるほどなり。大空より、人、雲に乗りて 下り来て、土より 五尺ばかり 上りたるほどに 立ち連ねたり。

内外なる 人の心ども、物におそわるるようにて、あい戦わん心も なかりけり。